

くらし 旅・スタイル

ご意見や取り上げてほしいテーマをお寄せください。メールk
urashi@chugoku-n
p.co.jp▽ファクス082
(291)5828

一人で暮らすのが難しくなった高齢者らの暮らしを、最期まで家庭的な空間で支えるホームホスピス「まろんの家」が、広島市佐伯区湯来町で動きだそうとしている。団地の空き家を改装し、定員はわずか5人。死に直面する患者や家族を支えるホスピス・ボランティアの経験がある女性たちでつくる一般社団法人フツフルが運営する。

湯来町の白砂台団地にある2階建ての民家を活用。1階には居室3室と食堂、浴室、トイレ、2階には家族も宿泊できる応接室とスタッフの控室を備える。スタッフも兼

最期まで家庭的な空間で

安心・安全

結ぶプロジェクト

広島市湯来町 ホームホスピス「まろんの家」



ねる理事は、がん患者や家族のホスピスケアに仕事やボランティアで携わ

った経験があり、ヘルパーや看護師の資格を持つ女性4人。24時間365

空き家改装5人でシェア

日態勢で入居者を見守る。

モデルにしたのは、広島市でNPO法人ホームホスピス宮崎が運営するホームホスピス「かあさんの家」。介護保険制度



①まろんの家で準備を進める栗山代表理事(左から3人目)たち
②広島市佐伯区湯来町の白砂台団地にある「まろんの家」

など既存の制度によらない、5人前後でシェアする民家。大切にしているのは、死の瞬間まで、その人らしくあり続ける暮らし。台所の音やにおいが感じられ、肩を寄せ合っ

て暮らす「家」は、人をくつらがせる力があるという。

同様の試みは中四国では「まろんの家」が初めてという。近くに住むフツフル代表理事の栗山恵子さん(59)は「地域の人気が軽に出入りできて、人生終盤の過ごし方を考える場になれば」と語る。

利用料は月額約15万円。1〜10日の午前11時〜午後3時、オープンハウスを実施する。フツフル ☎070(5522)7884。(平井敦子)